

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、
異業種交流活動を通して、
持続可能な地域経済圏をつくり、
夢と希望に満ちあふれた、
元気な地域社会を目指します。

SEA IWAKI

6月号／2021年6月1日発行

三つの目的

- 一つ 元気な会社をつくろう
- 二つ 元気な人財をつくろう
- 三つ 元気な経済圏をつくろう

5月20日(木)
18:00～

5月通常例会

会 場
いわきワシントンホテル

演 題 「創業100年の染物店が挑んだ業務改善」
～情報の見える化と業務効率化で過去最高売上を達成、残業ゼロへ～
講 師 株式会社京屋染物店 代表取締役 蜂谷 悠介 氏



●小野代表幹事挨拶

皆様、おばんでございます。お忙しい中、5月例会に参加いただきありがとうございます。

今日はこちらの会場とZoomによる参加の蜂谷様を交えましての講演会となりました。

いわき市の感染拡大防止対策の中、皆様にお集まり頂き大変心苦しく思っておりますが、皆様方に是非に受けて頂きたい講演があるということでこの度準備いたしました。

2月に私共の創立記念公開講演会ということで、いわき商工会議所さんとのコラボにて開催いたしました株式会社つづくの社長さん（井領 明広氏）にいわきまでおいで頂き“DXとは何ぞや”ということを学びました。これから慢性的な人手不足、働き方改革、またコロナ対策による非接触非対面などの新しい社会を進めなくてはならない為には、この講演が役立つものと思います。

2月の勉強会の”DXとはどういうものか”という事は

わかりましたが、それを具体的に会社に取り込んで、使いこなす事になりますとどのように進めたら良いのか。等の疑問が沢山上がって参りました。商工会議所さんと相談する中で、会員さんの実務として落とし込む方策を検討しているところです。それがまとまりましたら、皆様にもご案内できるものと思います。

本日の株式会社京屋染物店は『Kintone AWARD』というアプリを活用いたしまして毎年毎年業績を上げていらっしゃる会社です。蜂谷様の経営者としての能力が高いのは勿論ですが、最新のIT技術を駆使して仕事に打ち込む事は、これからの時代に合った方策ではないかと思います。是非、皆様に吸収して頂いて実務に生かしていただきたいと思います。



いわき経済同友会の目標の“世界で一番住みやすいまちをつくろう”を目指しながらこれからも研鑽を積んでいきたいと思いますので、ご支援とご協力をお願いしたいと思います。

講演会内容 創業100年の染物店が挑んだ業務改善 ～情報の見える化と業務効率化で過去最高売上を達成、残業ゼロへ～ 講 師 株式会社京屋染物店 代表取締役 蜂谷 悠介 氏

岩手県一関市創業103年目になる会社を営んでおります、(株)京屋染物店の蜂谷悠介と申します。

2017年、サイボウズという会社が提供しているクラウドサービス『Kintone AWARD』を生かしながら、劇的に業務改善を行ったということで、全国1万社以上の中を選ばれてグランプリを受賞いたしました。

その様子が日経ビジネスという雑誌にも取り上げられまして、業務改善の手法を学びたい、どういった活用をしているのか、実際の事例を紹介するということが増えております。今日もそういうことで呼ばれたんだろうなと思っております。

更に嬉しいことに今年になりましたこの活動が新聞にも取り上げて頂きましたが、ホワイト企業大賞を受賞することができました。ありがとうございます。

うちの会社は昔から働きやすい会社だったかというとそうではありません。デジタルを取り入れて、この伝統工芸の超アナログな業界の中で働きがいのある、また業績の向上につなげてきた辺りを今日はご紹介をさせていただきたいと思っております。

どん底から過去最高の売上を達成、去年もですね過去最高業績になりました。皆さんに見ていただきたいのがこの数字です。

14,000。大正7年創業当時に全国にあった染め物屋の数です。それが平成30年の時点になりますと300社。そしてこの頃になって、これが半数ぐらいになっているのでは、という現状があります。なぜかというと、全国のお祭りが中止になり、イベントが中止になっているからです。私たちの業界というのは、伝統的な祭の装束といったものを扱っているわけですから、仲間の会社も廃業を余儀なくされているところも多々あるわけです。私も2010年父親から譲り受け、経営を頑張っていました。

岩手県一関市 全国二位消滅可能性都市

代を受け継いだときに、岩手県一関市が10万人都市の内で人口減少率が全国二位なんです。国からは消滅可能性都市に指定されていますし、市役所の待合室にある電光掲示板は日々カウントダウンのように人口が減少し続けている様子を映し出しています。皆さんの暮らす町はいかがでしょうか。

衰退産業 環境劣悪

何をお伝えしたいかというと私たちの業界というのは、衰退産業と言わざるを得ない、絶好の環境とは言えなかつたのです。

最後になりますが、本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。また、コロナ禍が一日も早く終息することを願いまして代表幹事の挨拶といたします。



赤字経営 閉店倒産

代を受け継いだ時、蓋を開けてみると経営状態は赤字経営・閉店倒産。常にもう付きまとっているような、そういう状態でした。何とかこの状況を打破しなければと、朝から晩まで働いてました。社員からは「社長にはついていけない」と、言われて悲しいとか辛いなという思いよりも怒りがこみ上げてくるんですね。

夏の繁忙期は深夜残業当たり前、冬場には仕事がない。有給とか使えるような雰囲気ではない。なかなか先が見えないこの焦りと不安。

会社の部署をご紹介しますと営業・デザイン・染色・縫製の4つの部門に分かれています。

仕事の受け渡しは紙です、仕事がどこで滞留しているのか、誰もわからないんです。これではまずいと、事務所の壁に大きな用紙を張って進捗状況の把握をやったら時間と手間ばかりがかかるんです。

システム屋さんにお願いしたら費用100万円。これでなんとかなればいいな、とやったんですがまったく使われない。使いづらい。余計な仕事のプラスアルファ。いつの日か社員たちの中ではそのシステムの存在すらなくなるわけです。

何のために働くのか？

経済同友会の皆さんには十分ご理解頂いていると思うんですが、当時の私としてみたら、この会社にもなかったですし、何を目指すのかもなかったのです。

何の為に働いているんだろうと、毎日のようにノートに書きながら考える日々がありました。

その時に思い返したのが、皆さんも深い傷を負ったことだと思いますが2011年3月11日に起きた東日本大震災です。うちの会社は内陸の方ではあったんですが仕事ができるような状態でありませんでした。

あの当時も今のコロナと同じような状況で、全部の御祭りとかイベントお祝いムードというのは一切なくなつて、自粛自粛で祭りはなくなりました。当然私たちの仕事は全てキャンセルです。2010年に代を継いですぐの出来事でもうアップアップしている状態なのに更に注文がブツ飛びと、もう寝た心地はしませんでした。

何という人生なんだろうと自分を呪いましたし、世の中から必要とされてないのだと、人の生活の役に立たない仕事なんだ、と仕事への自信や誇りも失っていました。

実は当時、命を絶とうとまでちょっと考えたんです。

でも最後ぐらい人の役に立ってからにしよう、この会社も全部自己破産しようと思って、あの震災のボランティアで陸前高田に出かけたんです。そのときに私の人生を大きく変えた出来事があったんです。

ブルーシートをテント代わりに野宿している5人の男性に「一緒に頑張っていこう」と勇気付けたくて俺らをここにいるんだ、と力強く言わされました。人生を諦めきってた私は、こんな人たちがいるんだな、と感動しました。

私は彼らに身の上話をすると、彼の宝物の半纏をみせられ、「全国の祭が中止になってるかもしれないけど、被災地のど真ん中で住み暮らす者たちは1日でも早く祭をしたいと思ってるんだ」「なぜだかわかるか、俺らは祭には力があるって信じてる、祭のときだけは故郷を思い出してみんな戻ってくる、そしてじいさんばあさんたちは昔話に花咲かせて嬉しそうに、僕ら世代は絆を確かめ合いながら盛り上がる時間だ、この地域どうしてこうかと真剣に議論するような場で、そんな大人たちを子どもたちは見て未来に夢馳せてるんだ」

「祭は力があるんだよ、染屋さん頑張ってくれ」と、励まされたんです。そんな大切な仕事をしてたんだなと、気付かされたんです。

そこから考え方ガラッと変わって、今は、福島、宮城、岩手県の被災された祭芸能団体の衣装復元、学校その支援ということをさせて頂いています。いわきじゃんがら念佛踊りの浴衣も提供させて頂きました。

岩手県大槌町にある向川原虎舞という虎舞の団体の方々が、祭が復活し、この祭に参加した若いメンバーがわざわざ私たちの会社まで来て報告してくれました。「京屋さん、おかげさまで祭を開催することができました。この地域絶対盛り上げて復興させてやる。と力が湧きました。ありがとうございます。京屋さんのおかげです。」

本当に嬉しかったです。『何のために働くのか』という所の原体験というのはここにあるわけです。

日々の仕事の業務の忙しさに追われ来る日も来る日も必死になって、売上売上そんなことばかりを言っていたなあと、気付かされたのです。

そこで社員たちと皆で、何のために働くんだろうかということを考える時間を持ちました。もちろん、この話もしながらです。勤めていて誇りに思える会社、伝統的な職人を絶やしたくない半纏、染め物と聞けば京屋染物店と思われたい、日本文化を世界に発信したい、世界中のメーカーから頼られる存在になりたい…色々なことを書いてました。

正直びっくりしました。仕事を考えてるのは俺だけだって、思ってたんですけど実は違っていたんですね。社員たちもこういうふうに働きたいとか、こんな仕事をしたいと、心から実は思ってたんだ、と。

皆で『世界一の染物屋を目指そう』

実はこのベースができたおかげで、今まで誰も使わなかったシステムを、自分たちでフレキシブルに、も

うすぐすぐ高レスポンス良く、自分たちで改造できるようなものはないかなということで、このKintoneを見つけて、徹底活用するっていうことに至ったわけです。

ここから、社員たちは「そうか、そのため見えるか、情報の共有が必要だな、協力しなきゃいけないな」となりました。

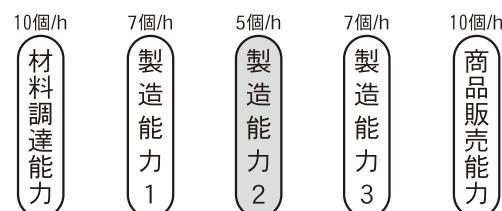
①業務改善

2011年当時の工場は、汚い・狭い・寒い・暑い・癒されない・余裕がない…とにかく居心地が悪い場所。改善した現在の工場は、きれい・居心地がいい・学び合える・風格がある・やりがいを感じる・楽しい

②システム導入前

- ファイルメーカーで利用
- 常に緊急事態の発生
- どの工程が混み合うか進捗が全く分からない

問 この会社は1時間に商品を何個売れるのか？

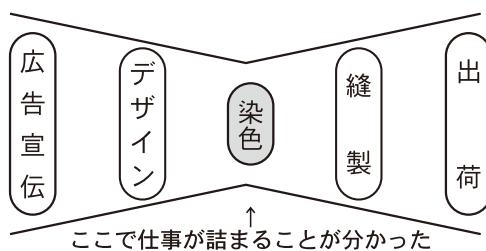


1時間辺り10個売れる、は不正解。

1時間辺り5個しか商品として届けられない。

会社のボトルネックは染色部だったが、部署を越えて皆で助け合おう。という感覚が当時はなかった。

答 ボトルネックで儲けは決まる。



③Kintoneアプリ構成

- 顧客・案件・在庫・注文履歴の管理
- 工程の進捗を管理し、ボトルネックを可視化
- 会社の利益・日報の閲覧が全社員可能に
- タイムカード・勤怠表の管理

進捗の見える化、助け合い、感動が見える、成果がすぐわかる。⇒交流促進

④改善されたこと

- 在庫が減ったことで余分なスペースが減った。
- 誰かに確認する時間や待ち時間が減った。
- キャッシュフローが良くなった。
- 仕事に余裕があるので短納期対応ができる。
- 業務改善が行われ、残業がほとんど無くなった。

⇒情報格差をなくし、社員の主体性を育む

講師紹介 株京屋染物店 代表取締役 蜂谷悠介様

経歴

岩手県一関市出身 1998年東北芸術工科大学卒業

倒産寸前だった家業を継ぎ、業績のV字回復を果たす。消滅可能性都市にも指定された岩手県一関市を拠点にフランス・パリにも営業拠点を展開。ヨーロッパにも販路を拓げている。

2015年 経営革新認定企業 経済産業省「TheWounder500」受賞

2017年「kintone AWARD」グランプリ受賞

2021年 第7回ホワイト企業大賞 受賞

一般社団法人 世界遺産平泉一関DMO 監事

講演会写真



◆誕生日プレゼントベゴニアが贈られました



左から波多野和茂さん、里見潤さん、小野代表幹事、小野佐重喜さん、田村哲朗さん(代理)

5月グループ会報告

第2グループ会

■日 時 5月20日(木曜日)

■場 所 オンライン(Zoom)

令和3年度第2グループ会も、いわき経済同友会のアカウントでZOOMにて行った。ヘルシーワンの小柳氏をオンラインで迎えて、オンライン診療の話を頂いた。

コロナ禍で、ここまで行っていた訪問診療からいわき市の夜間診療に先生の配置を替えるなどの苦労や資金的な問題などの話を聞いた。いわき市の面積から、インフラとも言える医療を今後考えて行く必要性があると思い企画しましたが、有意義な話を聞けたと

思っております。

ヘルシーワンも、一企業かも知れませんが、こう言った会社を応援していくのもいわき同友会の努めではないのでしょうかと感じた。

第3グループ会

■日 時 5月20日(木曜日)

■場 所 茨城パシフィックカントリー倶楽部

4組 14名の参加でした。

新型コロナ感染拡大が気になりましたが、天気も良く小野代表にも参加頂き表彰式まで行うことが出来ました。

FMいわき「いわき経済同友会だより」
【7月予定放送】

- ・7月5日 第2グループ 石清水銀士朗 様
- ・7月12日 第2グループ 佐藤 元明 様

- ・7月19日 第2グループ 遠藤 慧毅 様
- ・7月26日 第2グループ 寺主 君男 様

◇毎週月曜日17時45分からです。(約5分間)

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。
<http://www.simulradio.jp/>

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館 4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 小野賢司代表幹事
編集 情報委員会 委員長 松崎貴弘
副委員長/遠藤慧毅・小野嘉子・坂本和久
松尾幸治・宮野由美子